

急増する大腸がん

定期的な内視鏡検査で早期発見を



理事 長 世 後 藤 英

近年、食生活の欧米化や生活習慣の変化などに伴い、大腸がんにかかる人が年々増えています。特に厚生労働省が発表した「2010年人口動態統計」によると、女性のがん死亡率は大腸がんが最も多く、10年前の約4倍になっています。今回は、最新の内視鏡機器を駆使し、大腸がんの早期発見に取り組む服部胃腸科(熊本市中央区新町2丁目)の後藤英世理事長に内視鏡検査の必要性と適切な検査間隔などについて話を聞きました。

若い世代にも増えている大腸がん

大腸がんが増えているそうですね。後藤 がん年齢と言われる40歳以上に加え、近年は30歳代でがんやポリープに罹る人が増えています。しかし、この年代や特に若い女性は、定期的な大腸がん検査の受診率が、まだまだ低いのが現状です。

また、定期健診などで便潜血検査(FOB)を受診し、安心されている方も多いと思いますが、この検査だけでは稀に、進行性の大腸がんでも見落とすことがあります。出血や腹痛、便通異常などの自覚症状が出た時は、既にかんが進行した状態で発見されるケースもあります。

大腸がんは早期に発見すれば高い確率で治ると聞きますが。

後藤 大腸がんは比較的小さいがんだと言われ、早期の段階で発見できれば内視鏡治療で完治します。また、外科手術になった場合も、切除後の5年生存率は80%以上と比較的死亡率が低い病気です。そのためにも、最も精度の高い検査である内視鏡検査を受診し、早期発見を心がけることが大切です。

どのくらいの間隔で内視鏡検査をすればいいのですか。後藤 大腸は長く、多くのヒダがあります。このため、1回の検査では見落としがある可能性があります。腸内の洗

浄がきれいに出来ている状態で、2年は連続して内視鏡検査を行い、ポリープやがんがなければ、その後は3年間隔で検査すれば良いという報告も出されています。

大腸の内視鏡検査に抵抗感がある人も多いようですが。

後藤 当院の内視鏡検査は、痛みや違和感なく安全に検査を行うため、静脈麻酔を使用し、眠った状態で楽に受けることができます。また、大腸検査後のお腹の張りを改善するため、大腸内視鏡検査全例に吸収の良い二酸化炭素ガスを導入するなど、苦痛の少ない検査を心がけていますので、初めての方でも安心です。

また、女性の方にも気軽に検査を受けていただけるよう、院内には女性医師が3名在籍(内2名は内視鏡専門医)しています。分からないことや不安なことでも気軽に相談いただけるのではないのでしょうか。

診断や発見率向上に有効な拡大内視鏡とNBIシステム

内視鏡機器も日々、進化しているようです。

後藤 現在、大腸がんの最も有効な検査法は内視鏡検査です。当院ではハイビジョン拡大内視鏡とNBI(Narrow Band Imaging)狭帯域フィルター内視鏡)システムを導入し、病変が認められた場合は、腫瘍か否か、がんか否かな



最新の内視鏡機器で大腸検査をする後藤理事長

大腸検査を受けた方が良い方とは...

- 親近者に大腸がんにかかった人がいる方
- 血便がでた方
- 下痢が続く方
- 以前大腸ポリープがあった方
- 便潜血検査で陽性がでた方 (必ず再検査をお勧めします)

医療法人 社団 魁正会
服部胃腸科
 〒860-0004 熊本市中央区新町2-12-35 ☎096-325-2300
 人間ドック お申し込み・お問い合せ **0120-79-1800**
 FAX096-325-8845 http://hattori-clinic.com

医療・福祉三要素 OKUMAMOTO

このコーナーでは熊本市内でオープンした病院や新治療システム、福祉施設、福祉サービスなどの最新情報を紹介いたします。

MRIをバージョンアップ



岡山洋二 九州記念病院理事長

九州記念病院 熊本市中央区水前寺公園の医療法人社団 岡山会九州記念病院(岡山洋二)

二理事長はこのほど、MRIをバージョンアップした。

導入したのは東芝メディカルシステムズ製の1.5テスラMRI装置「Vantage Titan」(ヴァンテージタイタン)。同装置は架台開口径が71cmと以前の機器に比べ10cm以上広い検査空間を確保し、従来では検査が困難だった体の大きな患者や腰の曲がった患者、仰向け姿勢の困難な患者でもスムーズに検査が受けられるという。

同病院では「画質も向上し、検査時間も若干短縮します。また静音化技術Pianissimo(ピアニッシモ)の採用で検査時の騒音も低減されています。今後とも患者さまのニーズに対応できる診療体制・診療内容の充実に向けて努力していきます」と話している。



バージョンアップしたMRI

新屋敷3丁目に漢方内科医院

元八代市立病院副院長の中村雅生

医師(66歳)はこのほど、熊本市中央区新屋敷3丁目に漢方内科医院を開院した。



新屋敷3丁目に開院した「なかむら漢方内科」

場所とは通称産業道路沿い、白川中学校北側。名称は「なかむら漢方内科」で、フロア面積は約149㎡。診療科目は漢方治療専門の漢方内門の漢方内

本荘町にクリニックを移転



木佐貴浩一院長

熊本市中央区下通2丁目のシャワー通りきさぬきクリニック(木佐貴浩一院長)はこのほど、本

庄町の新興賃貸ビルにクリニックを移転し「きさぬきクリニック」に名称を変更した。

駐車場確保、フロア拡充のため移転したものの、場所は通称白山通り沿い、湯らつくすゲンキスクエア西側の税理士法人絆限部会計事務所敷地内に鉄骨造り2階建て、延べ床面積約280㎡の建屋に入居。延べ床面積はこれまでのクリニクから1.5倍強拡充。フロア構成は1階に診察室、超音波室、検査室、処置室、カウンセリング室に加え、新たにレントゲン室を設置。2階はエステ室、脱毛室、院長室。駐車場は11台。また、診療内容を内科、代謝内科、皮膚科から内科、糖尿病内科、代謝内科に変更し、

オゾン療法、高濃度ビタミンC点滴、GA外来などの自由診療を継続するという。



本荘町に移転した「きさぬきクリニック」

渡鹿8丁目に介護・医療などの複合福祉施設

くろみ福祉会

介護事業のくろみ福祉会(熊本市東区渡鹿8丁目、薙野英児社長)は、同地に介護、医療、教育の複合福祉施設を計画、11月1日から一部オープンしている。

場所はJR豊本線沿い、東海学園前駅南西側のくろみの森幼稚園がある



11月から順次オープンしている同施設の「ふれあい棟」。棟の東側に住宅型有料老人ホームを建設中

9900㎡の敷地。施設名は「くろみの森」。子どもから高齢者まで多世代交流の場となるよう、介護、医療、教育が連携し地域住民の触れ合いの場を提供する目的で計画。施設は鉄骨造り平屋建ての既存の建物(床面積は1320㎡)を改修し、11月にダンススタジオ(運営:株ZEN)、自然食カフェ「なぎの木カフェ」(運営:株エ、サービス「くるみの村」)がオープンした。2014年1月に介護ステーション(運営:株アースウェル)が、同年1~2月にクリニックが開院予定。

また、くるみ福祉会は敷地内東側に鉄筋コンクリート4階建ての住宅型有料老人ホームを建設している。14年2月末に完成、3月に入居開始予定。



ダンススタジオはフィットネス感覚でダンスを体験できるクラスを設定